

本日のニュージーランドは、霧が立ちこめる肌寒い朝を迎えました。滞在しているハミルトンエリアは、霧が多いことで有名で、朝晩は冷え込みますが、日中は太陽がさんさんと注ぎ込み、気温が急上昇します。一日の間に季節が変わってしまったのかと思うほど、寒暖の差が激しいので、生徒さんが体調を崩してしまうのではと心配です。しかし、そんな心配をよそに、皆さん今日も元気に登校してきました。

毎日提出してもらっている日誌には、生徒さんの素直な気持ちが綴られています。内容は、15歳という若いご年齢だからこそできる新しい発見や感じ方、できたこと、できなかったこと実に様々で、毎日多くの事を吸収してくれていると知り嬉しく思います。

その中で知るのには、我々添乗員が見ることのできないホームステイ先での生徒さんの頑張りは、ファミリーとの生活が始まって早3日、それぞれの家庭でドラマが繰り広げられています。昨日昼食に何を持参すればいいか分からなかったペアの生徒さんは、「ホストマザーにサンドウィッチの作り方を教えてもらいました。明日から自分達で作れそうです！」と明るく報告してくれました。分からないことをそのままにせず、相手に聞くということも、勇気が入る行動です。しかし、一歩踏み出すことで「今日できなかったことが、明日できるようになる」という成長をこの研修を通じてしていて欲しいと願います。

現地校生活 2日目の今日は、午前には現地校生徒との異文化交流、午後はマオリ族に伝わる民芸品作りに挑戦するなど、マオリ文化に溢れる1日となりました。特に午前中の異文化交流体験は、現地校生徒と一緒に、「きらきら星」を英語、マオリ語、日本語で歌い、お互いの母国語を教え合いながら、楽しそうにコミュニケーションを図っている生徒さんの姿が印象的でした。また、挨拶や数、色などの単語についても学習したのですが、「日本語とマオリ語の響きが似ていて親しみやすい」と感じた生徒さんが多くいらっしゃいました。昨日の歓迎の儀式「ポフィリ」もそうですが、ニュージーランドではマオリ文化を尊重し、次世代へ語り継ぐための教育がしっかりとなされていることを肌で感じる事ができたのではないかと感じます。

休憩時間や昼食の時間になると、外には生徒さんとバディの笑い声が響き渡ります。昨日は、バディの明るさに圧倒されていた皆さんですが、少しずつ慣れてきたのか「バディが話す英語はとても速いけれど、少し聞き取れるようになりました。」「今日はバディの名前を覚えました!」「日本からのお土産を渡したらとても喜んでくれた」と笑顔がはじけました。中には、鬼ごっこを一緒にして、汗だくになる生徒さんもいらっしゃる程です。しかし、せっかく仲良くなったバディと過ごせるのも残りわずか一日です。一期一会の出会いを大切に、限られた時間の中で交流を深めて欲しいと思います。以上研修3日目の報告と致します。

諏訪清陵高等学校附属中学校 ニュージーランド語学研修 報告書 3日目 3月6日(水)
【Melville High School】



諏訪清陵高等学校附属中学校 ニュージーランド語学研修 報告書 3日目 3月6日(水)
【Melville High School】

